

ワークショップ・デザイン 第3回

「物理的な場のデザイン」

研修講師・ファシリテーター 後藤 拓也

本稿では、ワークショップにおける物理的な場のデザイン、特に、ワークショップの場所やグループサイズ、机や椅子のレイアウトについて取り上げていきます。それぞれの項目について一般的な観点から論じていきますが、物理的な場はワークショップの目的や各ワークの意図に適する形でデザインすることが重要です。そのため、実際にワークショップ型で授業をする際の目的や意図などを頭に置きながら読み進めていただくとよいと思います。

物理的な場のデザインの重要性

物理的な場は、その場にいる人や、人と人のかかわり方、つまりワークショップ全体に大きな影響を及ぼします。これは部屋を例にとるとすぐに分かります。部屋Aは、8畳ほどの和室です。畳の上に座布団が並び、部屋に置いてある物は最小限で、外からは鳥のさえずりが聞こえ、窓からは庭の植物が見える環境です。部屋Aの中では、静かな時間が流れ、つい物思いにふけったり、物事を深く考えたりしたくなるかもしれません。一方、部屋Bは、20畳ほどの広い洋室のリビングです。部屋には流行りの洋楽が流れ、移動可能なソファや椅子が並び、一方の壁は全面ホワイトボード、もう一方の壁は全面ガラス張りです。都会の街を歩き交う人々をみることができます。この部屋Bの中では、多様な人が集い、ざっくばらんに交流し、新しいアイデアや活動が生まれるかもしれません。

こうした部屋の重要性は、ワークショップでも同様です。そして、部屋に正解はなく、人やシーンによって好まれる部屋が変わるように、ワークショップの物理的な場のデザインにも唯一の正解

はありません。そのため、ワークショップや各ワークの目的・意図に沿って、適切な場をデザインすることが重要になります。

今回は特に、①ワークショップ場所、②グループサイズ、③レイアウト、という3つの項目について取り上げていきます。

①ワークショップ場所のデザイン

学校現場でワークショップを開催する場合、教室で実施することが多くなると思います。それを基本としながらも、実施予定のワークに適する会場を利用することや、普段とは少し気分が変わるような環境を準備することも可能な範囲で検討するとよいでしょう。

最近では、移動しやすい机や椅子を配置し、ホワイトボードなども備えた「アクティブ・ラーニング室」をつくる学校も出てきているようです。そうした場所を活用するのも一手でしょう。また、身体を使ったワークショップの場合には校庭や体育館を使うこともできるでしょうし、市役所や公民館など公的な施設の利用を検討してもよいでしょう。但し、準備や片付け、移動の時間、費用なども含めて総合的に判断して、適切な場所を選ぶことが重要です。

②グループサイズのデザイン

ここでは、個人、ペア、グループ、全体という4つのグループサイズについて、それぞれのメリット、デメリットを紹介していきます。尚、実際のワークショップでは、例えば個人→グループ→全体という順番でワークを進めるなど、様々なグループサイズをうまく使い分けることが必要となります。

●個人（1人）

基本的に他者に気を使ったり、恐れを感じることはなく、自分の正直な考えや気持ちに向き合ったり、表現することができます。個人でのワークの後に、グループでその内容を共有する場合にも、「書いたことを全て共有する必要はなく、自分が共有できるものだけをしてみましょう」という旨を事前に伝えることで、本音が出やすい環境を維持することが可能です。また豊かな体験をした後や、混乱している状況下に個人の時間を持つことで、考えが整理されることもあります。

一方で、他者との関わり合いがなく、新しいものが生まれるかは個人次第という側面もあります。例えば、内省のきっかけとなる問いや体験をその前の段階でどれだけ提供できるかということもポイントになってくるでしょう。

●ペア（2人）

ペアでのワークは、互いに異なる視点、経験、アイデア、考えなどを持ちよることで、自分にはなかった新たな気づきや学びを得られる可能性があります。また、ペアであれば比較的恐れや不安も少なく、ワークショップへの個々人の関与度が薄まることもありません。ペアを組む相手と初対面、または互いをよく知らない場合などには、自己紹介や互いを知る時間を事前にとったり、簡単なワークから入ったりするとより深い関わり合いをしやすくなります。また、ペア・ワークで安心安全な場を実感できると、グループや全体になってもその感覚が持続することも多くあります。

一方で、ペアの1人がワークショップに消極的な場合、もう1人もそれに左右されやすいなど、1人が持つ影響力が大きくなります。こうした場合、ワークショップへの前向きな姿勢を事前に醸成しておくことが有効かもしれませんし、時にはファシリテーターとして介入をする必要があるかもしれません。

●グループ（3～6人程度）

ペアに比べてグループ内の多様性が格段に増すため、個々人が持つ異なる知識やアイデアから互いに学び合うことが促進されます。また、議論を

始め、様々な相互作用から創発が起き、新しいものが生まれる可能性も高くなります。

一方、個人やペアの時と比べ、人によっては本音が言いづらくなり、発言が特定の人に偏るなど、全員が積極的にワークショップに関わるのが難しくなります。例えば、グラウンド・ルールや事前のワークで、本音を出すことや全員が発言できる機会の大切さを伝えておくともいかもしれません。尚、7人以上になると、個々人が話せる機会がより制限されてしまい、グループとしては少し大きすぎるため、3人と4人の2グループに分けることを検討するとよいでしょう。

尚、3人グループと6人グループは大きく異なります。例えば3人グループは、講義や説明などのインプット後、少人数で、関与度を高く、本音を出し合ってもらいたい時により活用できるかもしれません。また、6人グループはあるテーマや問いに対して多様な意見やアイデアを出し合い、対話して探求するという場面により活用できるかもしれません。また、個人的には、話好きの人が多い場合には4人、シャイな人が多い場合には6人など、参加者やその時の状況を見ながらグループの人数を微調整しています。



●全員

個々人や各グループの気づきや学びを全体に共有することが可能ですし、全員が一緒に、大切なことを創造し、学習するプロセスに関わるのが可能です。そのため、全員で共通体験や一体感を持ちたい時にも有効です。

一方で、全員の前で発言することに恥ずかしさ、恐れや抵抗感をもつ人が多いことも事実です。そ

のため、個々人が主体的に関わりやすい環境をつくることも重要です。また、人数が多い場合には時間がかかることも多く、発言に際して目安時間を伝えるなどの工夫も必要となります。

③レイアウトのデザイン

グループサイズと密接に関係するのが机や椅子の配置を始めとするレイアウトです。ここでは、代表的ないくつかのレイアウトとその特徴、また合わせてワークショップで活用できる便利な小道具もご紹介していきます。

●教室（スクール）型

学校で典型的にみられるレイアウトです。「前に立つ先生や講師が話し、他の人は一方的に話を聞く」というマインドを生み出しやすいためワークショップで使われることはあまりありません。但し、机や椅子が教室型で固定されている会場もあります。その場合には、隣や前後の席の人とペアやグループをつくるなどの工夫が必要です。

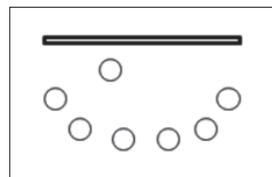
●隣り合わせ・向かい合わせ型

ペアで話をする際に使用します。机が不要な場合には、椅子のみのレイアウトがお勧めです。書く作業が必要な場合でも、クリップボードを用意することで代替できます。個人的には、何かを一緒に探求する場合や議論する場合には隣り合わせ、互いのストーリーや感じていることなど個人的なことを深く聴き合う場合には向かい合わせにすることが多いです。その理由は、隣り合わせに座り、同じ方向を向くことで、討論のように意見をぶつけ合うモードではなく、何かを一緒に考えるという気持ち生まれやすいからです。また、隣り合わせの時に紙やホワイトボードを使うと、物理的に同じものを見ながら進められるため話が発散しづらく、より効果的です。

●扇（シアター）型

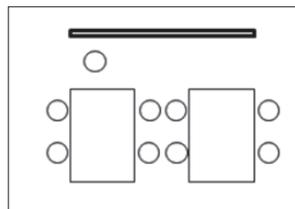
全員で発表をする時や、少しまとまったインプットの時間をつくりたい時に向いています。机は使用せず、椅子のみを扇形に並べます。教室型から机を除くと多少近い形になりますが、椅子を扇

形に崩すことで、教室型のレイアウトで形成される独特の雰囲気が薄まります。また、扇型では、必要に応じてペアやグループをつくり、話することも容易となります。



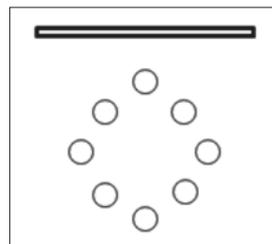
●島（アイランド）型

少人数のグループで話や作業をするのに適しています。机と椅子を島型に配置し、典型的には4-6人程度が座れるようにします。個人的には、人と人の距離が遠くなり過ぎないように工夫し、机が大きい場合には1つの机で4-6人が座れるレイアウトをつくっています。また、後述する「えんたくん」という道具を使うことで、机なしでも模造紙を使ってワークができるようになります。



●円（サークル）型

上座や下座もなく、全員の顔を見ながら一体感をもってワークを進めることができます。また、全員が平等な形で発言するのにも適した形です。椅子のみで全員の顔が見えるように、できるだけ綺麗な円をつくりまします。話したい人が好きな時に発言をすることもできますし、進行を早めたい場合には時計回りなど順番を決めて話することもできます。また、後述する「トーキングオブジェクト」という道具を使い、話をしたい人はその道具を手に取り、周りの人はその人の話を集中して聴くという環境をつくるのもよいでしょう。特に、発言力が強い人がいて、その人が会話を独占してしまいそうな場合には効果的です。



●その他のレイアウト

机や椅子もなしで、地べたに座って話やワークをすることも可能です。寝転がることもできますし、互いの距離感も近くなるので、よりくだけた雰囲気です。

また、会場のスペース毎に意味をもたせることや、異なる雰囲気をつくることも可能です。具体的には、ビニールテープなどで会場を区切り、「この場所では楽しい気持ちを表現して、別な場所では悲しい気持ちを表現する」というワークも考えられますし、装飾等で楽しい雰囲気を演出することもできるでしょう。また、会場の広さに余裕がある場合には、会場の半分には円型、もう半分には鳥型をつくっておき、ワークによって移動しながら使い分けることで、時間や手間を減らすこともできます。

ワークショップで活用できる小道具の紹介

●えんたくん（有限会社三ヶ日紙工）

直径1mほどの円型の段ボールで、その上に専用の模造紙を置いて使用します。グループで椅子に座り、皆の膝の上に段ボール乗せて支えることで、机がない場所でも模造紙の利用が可能となります。



●トーキングオブジェクト

ぬいぐるみや木製の積み木など、手におさまるものであれば基本的にどんなものでも使用可能です。尚、ぬいぐるみなど柔らかいものを使用すると、次の相手に投げてパスをすることもできます。実施の際には、発言する人はトーキングオブジェクトを手に取り、それ以外の人は聞くというルールを徹底します。

●どこでもシート（セーラー万年筆株式会社）

静電気で壁にくっつけることで、壁が即席のホワイトボードになるシートです。黒板やホワイトボードがない場合、壁に模造紙等を貼ることが難しい場合などに役立ちます。

●ポストイット イーゼルパッド（スリーエムジャパン株式会社）

模造紙のように大きなポストイットです。卓上タイプのもは黒板やホワイトボードの代用として使用できる可能性もあります。また、通常の模造紙とは異なり、ポストイットのように最初から粘着部分があるため、剥がしてすぐ壁に貼れる点も魅力です。

④その他の様々な環境のデザイン

ワークショップにおける物理的な場のデザインには様々な観点があります。例えば、リラックスした状態をつくるために、ワークショップでは飲み物やお菓子が用意されることも多いです。開始前や休憩中、ワーク中に音楽を流すこともあります。また、スライドを使用するときは少し暗めに、逆に対話をする際には明るくするなど、照明を調整することが有効な場合もあります。時には、グラウンド・ルールを書きだした紙や、ワークショップで使った模造紙を壁に貼り出しておくことも有効です。他にも、参加者の自己紹介シートを壁に貼り出すことで、休み時間に会話が生まれる仕掛けをつくることもできます。

終わりに

以前にも書いた通り、ワークショップではデザインが8割ともいわれます。本稿で触れたグループサイズやレイアウトも慣れてくると即興的にデザインすることが可能ですが、ワークショップや各ワークの目的・意図に沿って、できる限り事前にデザインしておくことがお勧めです。その上で、実践後に振り返ることで、次回以降に活用できる気づきや学びが見えてくると思います。ワークショップに関わる生徒と同じく、先生自身も是非楽しみながら物理的な場のデザインについて実践を通じて学んでいきましょう！

<先生がワークショップを学び、
実践する場を開催中>
詳細は⇒ [https://mj23masa10.sakura.
ne.jp/active2016/](https://mj23masa10.sakura.ne.jp/active2016/)



日本簿記学会第 33 回全国大会「高校簿記教育懇談会」のお知らせ

日本簿記学会理事 東京都立江東商業高等学校副校長 加瀬 きよ子

本年の日本簿記学会（会長 中野常男先生）第 33 回全国大会は、明治大学（準備委員長 田中健二先生）を会場として、8月24～26日に開催されます。今年も例年どおり「高校簿記教育懇談会」を開催します。多くの皆様に参加していただけますように、8月25日（金）の10時～11時30分を予定しております。なお、従来から、本懇談会は広く高校の先生方に開かれており、会員でない先生にもご案内申し上げております。

「高校簿記教育懇談会」では、講演も予定しております。今年は専修大学大学院教授・一橋大学名誉教授の安藤英義先生にお話をいただきます。講演テーマ・会場へのアクセス方法など、詳しくは日本簿記学会の Web ページ（<http://www.hakutou.co.jp/boki/>）をご覧ください。

高校簿記教育懇談会に参加をご希望の先生は、Eメール・FAX・電話のいずれかで、お名前・学校名・連絡先を添えてお申込みください。特に申込の期限は設けませんので、どうか振るってご参加くださいますようお願い申し上げます。

参加申込先 東京都立江東商業高等学校 加瀬 きよ子

E-mail : kiyoko_kase@member.metro.tokyo.jp FAX : (03)3636-1075 電話 : (03)3685-1711

日本商業教育学会 第 28 回全国大会(兵庫大会)のお知らせ

日本商業教育学会第 28 回全国大会 会長 福井 誠（流通科学大学副学長）

実行委員長 木口 誠一（日本商業教育学会関西部会長）

本年の日本商業教育学会（会長 永井克昇先生）第 28 回全国大会を、流通科学大学（兵庫県神戸市）を会場として、8月26日（土）・27日（日）の2日間開催いたします。

本学会は、会員の商業教育に関する理論的かつ実証的研究を促進し、かつ、関係諸機関との連携を図りながら商業教育の発展に寄与することを目的とした私的研究組織です。平成のはじまりとともに発足し、これまで途切れることなく研究活動に邁進してまいりました。年に1度開催される全国大会では、商業教育に関する先進的で実効性の高い研究報告や、一流の講師による講演、日韓学術交流会など、さまざまなプログラムをとおして、会員の研修に資する場としての役割を、長年にわたって担ってまいりました。

本年度の大会テーマ（統一論題）は「知識社会に対応した商業（ビジネス）教育について」です。基調講演では、流通科学大学前学長・名誉教授の石井淳蔵先生より「中内功—理想に燃えた流通革命の先導者—」という演題のもと、商業教育の更なる高まりにつながるようなお話をいただく予定です。

つきましては、会員には別途案内通知をしているところですが、会員以外の方でもオブザーバーとして奮って大会に御参加くださいますようお願い申し上げます。

参加を希望される先生は、Eメール・FAXのいずれかで6月30日までにお申込みください。様式は自由ですが、御氏名・勤務先名・連絡先は必須でお願いします。なお、参加費として、昼食代を含めて¥5,000を当日受付にてお支払い願います。

参加申込先 全国大会（兵庫大会）実行委員会事務局（流通科学大学内 川合研究室）川合 宏之

E-mail : Hiroyuki_Kawai@red.umds.ac.jp TEL/FAX : 078-796-4954